



1. 50万ドルの恩返し

アメリカ在住の米山学友、周順圭さん（中国出身／1962-63:東京西RC、1963-65&66-68:東京世田谷RC）が5月31日に当会を訪れ、個人として50万ドル（約6,650万円）の大口寄付をお申し出くださいました。



事務局を来訪した周さん(前列左)

周さんは1958年来日。東京工業大学学部課程、同大修士課程を卒業後、東京大学博士課程へ進学、工学博士の学位を取得した後、渡米しました。半導体の専門家として数々の企業を成功に導き、シリコンバレーのハイテク業界では

広く知られている人物とのことです。

今年86歳になる周さんは、生まれ育った中国、専門教育を受けた日本、そして仕事での成功をおさめたアメリカの懸け橋となって支援していきたい、それぞれの国への恩返しの気持ちを

込め、今回の寄付をしたいとお話してくださいました。

翌6月1日には、54年ぶりに世話クラブの東京世田谷RC例会へご夫妻で出席し、大友敬会長から名誉会員の称号を授与されました。

2. 寄付金速報 —今年度の寄付は30日（木）まで—

5月までの寄付金は前年同期と比べて0.8%減（普通寄付金:0.8%減、特別寄付金:0.8%減）、約1,000万円の減少となりました。今年度予算として、普通寄付金4億1千万円はすでに達成し、特別寄付金8億7千万円まではあと5,600万円弱と今年度分の「予算達成」はほぼ確実に

なりました。皆さまからのご支援に厚く御礼申し上げます。

今年度の寄付実績は、普通寄付金・特別寄付金ともに**6月30日（木）までに当会銀行口座に入金記帳された分まで**となります。ご送金の際には日程に余裕をもってお送り下さい。

3. ゴトン ロヨン — 市民科学者になろう —

5月1日、マレーシアの海岸清掃を目的とする「ゴトン ロヨン ～市民科学者になろう～」プロジェクトが、マレーシア米山学友会の呼びかけで開催されました。ゴトン ロヨンとは、マレー語で「共同作業」を意味します。

今年、マレーシアのルックイースト政策が40周年を迎えることを記念し、ただ海岸清掃をするだけでなく、大学の海洋研究機関の協力を得て集められたゴミを分析、そのデータを政府に提供するこ



とでより良い環境づくりに繋がりたい、というものです。同学友会の呼びかけにより、在ペナン日本総領事の折笠弘維氏と総領事館スタッフ、

州議員、現地NGOを含む総勢120人が参加し、多数の現地メディアやテレビでも取り上げられました。

マレーシア学友会会長の黄麗容さん（横浜泉RC）は、「地元メディアを通じて発信されたことで、一般市民の方々の環境への意識を変えることができたのではないかと、述べました。

4. 初めてのホームカミングデーが開催

5月21日、国際ロータリー第2750地区ロータリーファミリー支援委員会主催の「”Re-CONNECT” ROTARY FAMILY HOME COMING DAY」が国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されました。会場には約150人が集い、海外在住のロータリー学友20人がZOOMで参加しました。



サコさん(後列中央)と米山学友の皆さん

このホームカミングデーは、ロータリーのさまざまなプログラムを修了した学友、ロータリアン、ローターアクターが一堂に会し、「つながる」ことを目的に開催されたものです。当日は、米山学友・奨学生も多数参加し、ロータリーファミリーとの交流を深めました。



今回は第1回の開催を記念し、京都精華大学前学長であり、元米山奨学生のウスビ・サコさん(京都北RC)が基調講演を行いました。続くパネルディスカッションでは、ロータリー財団学友の菅生零王さん、米山学友の沈雨香さん(東京iシティRC)とともにサコさんも登壇。米山奨学金事業について、「ロータリーへの感謝は言葉では表現できない。自分が活躍することがロータリーへの恩返しになる。次の世代のことを考えて行動していきたい」と述べました。

5. 次年度地区米山委員長セミナー開催報告

2022-23年度の地区米山奨学委員長を対象とする第2回セミナーを5月31日、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。

若林紀男理事長の挨拶に続き、井原實常務理事から委員長に期待することについて講話をいただきました。事務局からは、学校説明会や指定校選定における注意点、また、地区と世話クラブとの連絡体制作り、広報関連の説明を行いました。

その後5グループ(うち2グループはZOOM)に分かれ、寄付増進、奨学生育成、学友会などをテーマに、各地区における現状の課題や、取り組みについてディスカッションを行いました。最後にディスカッションの内容を代表者が発表し、水野功副理事長の講評で閉会となりました。第1回セミナーではディスカッションで「十分な議論

ができなかった」とのご意見があったことを受け、今回は120分取ることで、「各グループで内容の濃い話し合いができた」と、好評の声をいただきました。

